

改訂版

目的志向と目的思考を強化する

ブレイクスルー思考 EX

—ミッション・ビジョン・バリューを創造する— 松永 譲治 著

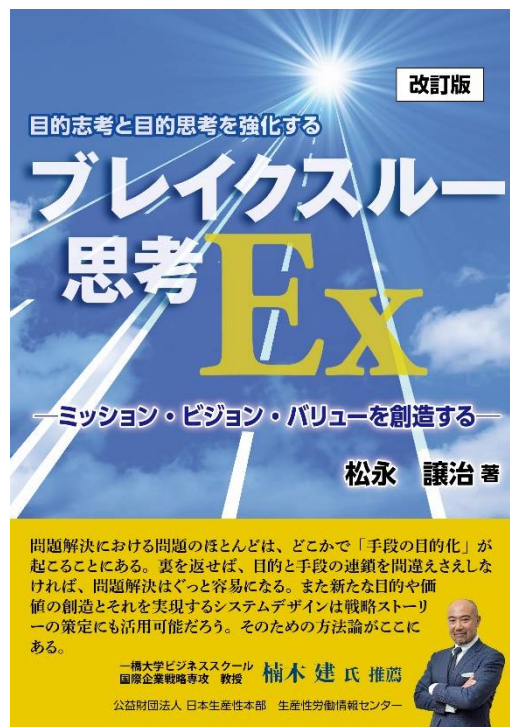
生活やビジネスといった私たちの行動の前には、無意識でも必ず何らかの思考があり、そこから生まれる思いがあります。その漠然とした思いを明確な目的や目標に変換して叶え、実現するのがブレイクスルー思考です。

環境が激変し混迷する現代、過去や現在を分析し未来への道を創出するという従来の思考には限界が来ています。いまこそ私たちは、新たな未来のあるべき姿を「想像・創造」し、その実現を図るべき時です。

本書では、ブレイクスルー思考の基本的な考え方、進め方、実際の活用例などを解説しています。また、今回の改訂では、事例を【モノづくり】だけでなく、【人づくり】から【コトづくり】にまで拡大しました。

本書を思考のOS(基本ソフト)として活用することで、自らの主体性・創造性と確固たる自信をもって、見えない未来や新たな価値を創造し提供することができるようになります。

- 第Ⅰ章 ブレイクスルー思考へのイントロダクション
- 第Ⅱ章 目的志向と目的思考を強化しよう
- 第Ⅲ章 ブレイクスルー思考の進め方 … 4つの思考フェーズ
- 第Ⅳ章 ブレイクスルー思考を活用しよう



2024年10月刊行 A5・227頁
ISBN978-4-88372-616-5 C3034
定価 1,980 円

一橋大学ビジネススクール国際企業戦略専攻 教授 楠木 建氏 推薦

問題解決における問題のほとんどは、どこかで「手段の目的化」が起こることにある。裏を返せば、目的と手段の連鎖を間違えさえしなければ、問題解決はぐっと容易になる。また新たな目的や価値の創造とそれを実現するシステムデザインは戦略ストーリーの策定にも活用可能だろう。そのための方法論がここにある。



<みなさまから推薦文をいただいています>

元TOTO代表取締役会長・社長 木瀬 照雄 氏

本書はブレイクスルー思考が理解できるばかりでなく、課題解決にブレイクスルー思考をどのように使っていけばいいのかを実例を取り上げながら本当にわかりやすく説明しています。特に企業の新任役員や新任部長がブレイクスルー思考を身に着ければ大きな力となり、会社の発展や日本経済の発展に寄与するものと確信しています。ブレイクスルー思考では、ファシリターという造語でリーダーの思考を鍛えています。

私は1996年、新任取締役経営戦略室長の時にこのブレイクスルー思考に出会いました。当時中京大学教授だった日比野省三先生にブレイクスルー思考に関する社内研修をやっていただき、事業部メンバーを中心に5チームくらいで課題解決に取り組みました。私も若手役員チームを作り参加し2週間に一度くらい指導いただきながらステップを踏んで進みました。目的は何か、その目的は何か、またその目的は何かを24時間考え続けたことなど思い出します。その中でウオシュレットチームの活動が後々大きな成果に結びついていきました。今でこそ公開できますが、未来の棚に掲げておきたいいろいろな開発テーマが10年以上かけて実現できお客様に喜ばれたことです。自動開閉、自動洗浄（ノンタッチ）キレイ除菌ノズル洗浄、空飛ぶウオシュレット、自己発電リモコンなどが生まれました。

その後、大阪支社長、マーケティング本部長、販売推進グループ長をなど1～2年ごとに代わり社長就任しましたがブレイクスルー思考が身についてきたのか大きな課題に次々と取り組むことができました。「当社は何のために存在するのか？」を常に目的、根本に戻って考え続けました。「未来のあるべき姿からを現状どうすべかを考え続ける」「当社がなくなったら人々は困るだろうか？」「ずっといてほしい会社になるにはどうすればいいか？」など、こんなことを考えていると企業理念の持つ意味がよくわかってきたのです。そこで社長就任後に取り組んだのは企業理念の再構築でした。そして出来上がった企業理念は創業者の精神に近いものとなったのです。本質の追求、根本の追求、何のための会社かを追求することが本当に大事だとよくわかってきました。現在その企業理念は世界中のグループ会社で毎日唱和され一体感の醸成に大いに役立っています。私はこれもブレイクスルー思考がもたらした大いなる成果と確信しています。

ぜひ本書を読んだ皆さんはどんなことでもいいので、まず一つ簡単な課題解決にブレイクスルー思考を使ってみてください。何度かやっているうちに自分の思考が変わってきてどんな課題にも気軽に取り組んでいけるようになると思います。皆さんの力が日本を、そして世界を変えます。

日本システムデザイン学会会長・早稲田大学名誉教授（工学博士） 黒須 誠治 氏

本書では、世の中に存在するモノ・コトは、すべてシステムと認識できると考えている。つまり、万物はすべてシステムである。このようなシステムというものをどのようにして創っていけばよいか。すなわち、システムデザインはどのように進めていけばよいか。それを丁寧にかつ的確に、そして要領よく述べたものが本書である。イノベーションを起こそうと思っている人、改善を考えている人、新しく役にたつものを創ろうと思っている人にぜひとも読んでいただきたい一書です。

元日本創造学会会長 田村 新吾 氏

人類に残された唯一の特権は創造である」とソニーの創業者の井深大は断言しました。しかし、脳は言葉の詰まった部屋状態です。創造の種が満載ですが、うまく引き出せず悩みます。そのドアの掛け金を外すことで閃きに至ります。それがブレイクスルー思考です。本書は、手順に従って進めば、その掛け金をはずして閃き、新たな発想に至るわかりやすいガイドラインの書で、企業の企画マンにお勧めの書です。

日本バリュー・エンジニアリング協会 理事・事務局長 宮本 彰夫 氏

喫緊の課題として注目されるSDGsの目標は、Transforming Our World、世界を変えるということです。しかし、日本財団が6か国の18歳を対象に行った意識調査（2024）で、「自分の行動で国や社会を変えられると思うか？」との問いに前向きに回答した人の割合が、6か国中、日本は45.8%で最下位だったそうです。これまでの学校では、社会に順化するための教育に重きが置かれてきて、「社会を変える」ための方法論の教育が十分ではなかったように思われます。「ブレイクスルー思考」は、社会をよりよく変えるための方法論であり、ビジネスパーソンはもとより、Z世代と呼ばれる若い方々にもぜひ知っていただき、そして活用していただきたいと思い、本書を推奨いたします。

元A I U保険会社（現A I G損保）代表取締役会長・社長 吉村 文吾 氏

松永さんは営業のたたき上げ出身で、本社ではその経験を踏まえ営業企画・推進・変革・教育などの責任者として指揮を執ってもらった。強い目的意識と使命感で自ら高い目標を設定し、あるべき姿の実現に果敢にチャレンジすることで、常に結果を出してくれた。その彼の頭の中にこのような思考エンジンが組み込まれていたことは本書で初めて知った。ますます激動・混迷を深めるビジネスの最前線において、ワンランク上のパフォーマンスを目指すビジネスパーソンにはぜひお勧めしたい一冊である。